

青森県十和田湖町における観光の現状と今後の展望

中 田 直 行

I はじめに

(1) 研究動機と研究目的

近年の全国的な景気の低迷や雇用の削減など経済が大きく落ち込んでいる状況の中、様々な分野への経済波及効果が高い「観光産業」は、21世紀の成長産業として大きく注目されている。

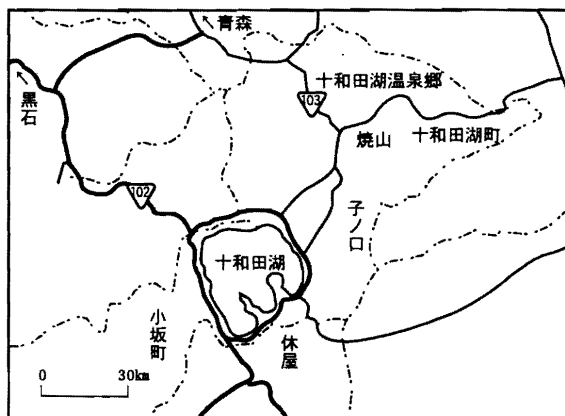
そこで、本研究では、21世紀に注目される観光産業について、十和田湖町を研究対象地域として、観光業の現状を明らかにした上で、今後の課題とそれらに対する取り組みについて考察することを目的とする。

本研究では、主に町役場、観光施設などからの聞き取り調査を中心として、観光客の実態を明らかにするとともに、町勢要覧などを活用して、歴史的過程も検討した。

(2) 研究対象地域の概観

青森県十和田湖町は、青森県の南部中央に位置し、周囲を6市町村に接する県境の町であり、十和田八幡平国立公園を有し、面積は371.81km²で、青森市に次ぐ県内第2の広さである(第1図)。十和田湖、奥入瀬溪流、八甲田山などの景勝地が数多くあり、猿倉温泉、谷地温泉、十和田湖温泉郷などの温泉に恵まれ、自然が豊かな観光資源となっている。人口構造を見ると、若年層の町外流出が目立っている。

町の主な産業は、商業・観光産業であり、十和田湖畔地域(休屋地区)を中心として盛んに行われている。また、その他の地域では、農業も盛んで、町経済の基幹産業の一つとなっている。



第1図 研究対象地域の概観

Ⅱ 十和田湖町の観光地化の歴史

十和田湖町において、主要な観光資源は、国立公園における春季・秋季の新緑・紅葉や夏季の冷涼性などといった自然環境がほとんどである。

十和田湖町では、明治時代から国立公園指定を積極的に働きかける動きが起こっていた。そして、昭和11年2月1日、国立公園に指定され、その後、八幡平や岩手山一帯も追加となり、「十和田八幡平国立公園」に改称された。1960年代後半の観光ブームにより十和田湖町でも、1963年には十和田湖温泉郷が完成し、1973年には十和田高原開発が着工するなど、行政が観光化により一層力をいれはじめた。その後、自然環境に対する都市住民の評価が高まって、十和田湖町を訪れる観光客が多くなり、八甲田ロープウェイの運行や各種の自動車道など、交通体系の整備も進み、十和田湖町は、観光地として急速に発展していった。

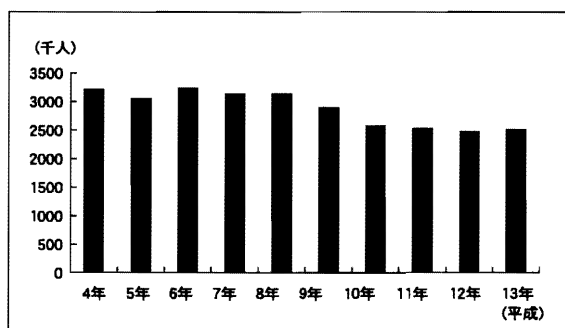
Ⅲ 十和田湖町の観光の現状

(1) 観光客の特性

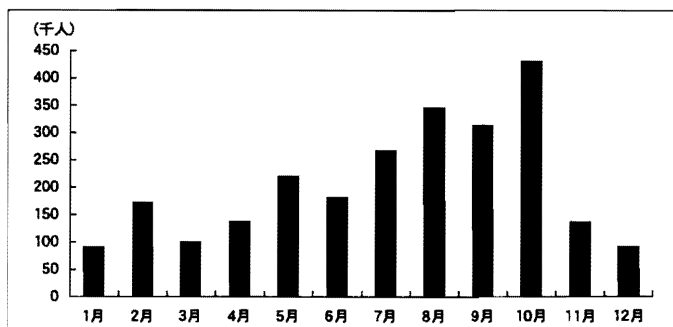
平成13年十和田湖町への観光客の入込み客数は229万人で、平成8年をピークとして減少してきている（第2図）。入込数のうち、日帰客が65％・県外客が70％を占め、通過型観光地としての性格を有している。冬季は宿泊施設の半分以上が営業を停止し、このことが冬季の観光客の入込みを困難なものとしている。十和田湖町で昔から営業をしてきた宿泊施設などは、団体向けの造りの建物が多く、近年の国内旅行形態への対応の遅れも出てきている。月別の入込みをみると、夏季から秋季にかけて観光客が集中している（第3図）。

(2) 交通利用状況

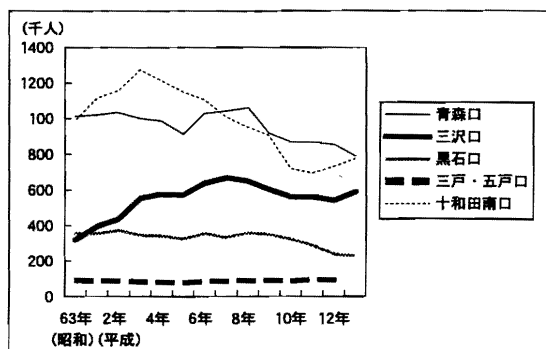
観光の中心である十和田湖畔にアクセスするためのルートとして5つが主要なものと考えられる。第4図をみると、青森口と十和田南口が十和田湖観光の流入入の大



第2図 十和田湖町における観光客入込み数の推移
(平成13年度青森県観光統計概要より作成)



第3図 十和田八幡平国立公園における月別入込み客数（平成13年度）
(平成13年度青森県観光統計概要より作成)

[illegible]

区 分	定期バス及び貸切バス														乗用車 1月～12月	合 計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	小計			
青森口	3,542	8,191	4,649	9,519	25,237	29,665	17,932	31,879	23,024	52,689	12,176	2,879	221,382	563,598	784,980	
三沢口	397	1,248	1,134	1,815	4,584	6,466	4,481	5,615	9,643	15,712	4,481	1,134	56,720	526,408	583,128	
黒石口	97	339	291	4,895	11,679	8,287	2,568	3,005	6,349	9,159	1,793	0	48,462	180,802	229,264	
五戸口	73	224	212	0	485	376	321	230	2,514	1,302	321	0	6,058	108,574	114,632	
十和田南口	1,745	3,707	2,181	10,904	30,531	26,605	15,265	25,515	22,244	61,062	17,228	1,090	218,077	561,919	779,996	
合 計	5,854	13,709	8,467	27,133	72,526	71,399	40,567	66,244	63,774	139,924	35,999	5,103	550,699	1,941,301	2,492,000	
構成比	1.1	2.5	1.5	4.9	13.2	13.0	7.4	12.0	11.6	25.4	6.5	0.9	100.0	—	—	

— 26 —

IV 課題と今後の展望

(1) 課題と取り組み（東北新幹線八戸駅開業に際して）

課題としては八戸駅からの二次交通の整備が挙げられる。これについては、バス会社が観光バス路線を整備したり、十和田湖畔のホテルが共同して無料定期観光バスの運行を開始した。

第2の課題としては、冬季観光の振興である。町では、東北新幹線八戸駅開業へ向けて冬季の観光イベントの長期開催を3年前から実施してきた。もう1つの冬季観光振興策は、「十和田湖畔温泉」の開業で、東北新幹線八戸駅開業へむけて平成14年12月に各宿泊施設への配湯をスタートさせた。

第3の課題としては、滞在型観光地への転換である。十和田湖町の各宿泊施設では、各々が様々な体験活動を取り入れる取組みを行なっている。例えば「ねぶたハネト体験」や「民芸品作り体験」、「乗馬体験」などがある。

(2) 今後の展望

東北新幹線八戸駅開業によって、十和田湖町を訪れる観光客は一時的に増えると思われる。また、交通網の発達によりさらに広域観光という面で観光市場が広まりを見せるだろう。そうした中で、十和田湖町が北東北の観光の拠点として重要な位置を占め、発展するには、観光関係者の意識の向上とともにもっと積極的に十和田湖町の魅力を観光市場にアピールすることは欠かせないと思う。

V 結 論

十和田湖町は、青森県・北東北を代表する観光地として、明治時代から発展してきた。しかし、近年では観光不況の真っ只中にあり、現状としては通過型観光地の性格がより一層強まり、冬季の観光資源に乏しいということがわかった。平成14年12月の東北新幹線八戸駅開業を観光復興のチャンスととらえている町では、二次交通対策・冬季観光振興・参加体験型活動の導入など、様々な対策を行なってきた。新幹線によって、一時的に観光客が増えると予測されるが、これからそれを維持するには、観光関係者の意識の向上や広域化する観光市場への対応など残された課題は多い。

【謝 辞】

本稿の作成にあたっては、後藤先生、小岩先生からは終始貴重なご指導、ご助言をいただきました。資料収集の際には、十和田湖町役場の方々、十和田湖観光協会の方々にご協力いただきました。

した。また、各種の聞き取りにあたって十和田湖町の多くの皆様にお世話になりました。ここに深く感謝の意を表します。

【参考文献】

- ・青森県：「平成9－13年度青森県観光統計概要」
- ・淡野 明彦（1986）：沿岸域におけるリゾート型観光地域の形成、人文地理38－1、7－25
- ・神谷 秀彦（1993）：高冷地山村長野県開田村の観光地化、人文地理45－1、68－82
- ・佐川日奈子（1993）：秋田県田沢湖町における高原観光地域の形成、秋田地理、13、17－30
- ・総理府（2002）：観光白書（平成14年度版）、16－40
- ・十和田湖町（2000）：「十和田湖町町勢要覧（2001年度版）」、32